

2026年2月1日 実施

久留米大学

一般 英語

解答速報

医学部専門予備校
医学部特訓塾

医特

1

1	2	3	4	5	6	7	8
(b)	(a)	(d)	(a)	(a)	(a)	(b)	(d)

2

1	2
(b)	(a)

3

(1)	(b)–(e)–(c)–(f)–(a)–(d) We saw <i>significant improvements in muscle strength, flexibility, strength endurance and mental health, suggesting that even small amounts of daily exercise can provide sustainable and detectable</i> benefits in sedentary individuals
(2)	(d)–(b)–(a)–(f)–(c)–(e) This type <i>of exercise is also more accessible to most people, as it makes use of body weight and eliminates the need to go to a gym.</i>
(3)	(b)–(f)–(a)–(e)–(c)–(d) Performing exercises <i>regularly is very important, particularly as people get older, as it lowers the risk of chronic disease, injury, fatigue and helps with mental health.</i>
(4)	(c)–(b)–(d)–(f)–(e)–(a) The guidelines <i>are for 150 minutes a week of exercise, but that figure can often discourage people, especially if they are just starting out.</i>

4

1.	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
	(a)	(b)	(d)	(b)	(c)	(a)
2.	(a) · (f) · (g)					

5

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

(a)	(c)	(b)	(c)	(a)	(d)
-----	-----	-----	-----	-----	-----

6

1.	A research team from Tokyo University reported that what had been considered the oldest human bone fossils for over seventy years turned out to be those of a bear. (29 語)
2.	南インドの言語で書かれた短編集のインド人による英訳がブッカー賞候補作となり、この言語への関心が高まっている。(54 字)

【講評】

大問1：例年この大問では、受験生には厳しいであろうと思われる語彙表現がいくつか出題されていたが、25年度からその出題が減少傾向にあり、今年度は7の1問のみであった。標準的な文法書レベルの知識を問うものがおおかったため、しっかりと得点すべき大問になった。

大問2：不要文除去の問題は、話の流れ・指示語や指示副詞に注意して見ていき、不要文を探すという作業の流れで答えを探していく。今年の問題も同様の解法で問題なかったが、ここ数年、大問2で難しい語句が組み込まれた文章が選ばれることが多くなった。難語を含む細部より、各文の大意を掴む力を養っておきたい。

大問3：ECU (Edith Cowan University)の記事 Five minutes a day eccentric exercise can improve your life が出典で、「1日5分の自宅トレーニング時間を設けることから得られる心身の健康への利益」を述べる英文であった。品詞・修飾・構造に注意して文章を構築できる能力が試されている。ここ数年、表題が与えられるので内容の理解がしやすくなっている。今年の問題は、品詞のつながりと意味を頼りに言葉同士をつなげば、あまり困る問題がなかった印象で、例年より易しかった。

大問4：「東アジア諸国の少子化の原因についての考察」に関する英文であった。例年と比べて内容も理解しやすく、語彙レベルもそう高くなかった。例年、語補充問題ではやや難しめな語も出題されていたが、今年は(3)の1問のみで、こちらは難単語を含む選択肢が解答に影響しなかった。以上から、やや易化した印象。

大問5：「犯罪記録の開示規定から見る日本と英国の違い」に関する英文であった。質・量自体は

例年通りと言えるが、このような文系色の強い英文に慣れていない医学部受験生も多く、その分読みにくさを感じたかもしれない。

大問6：要約問題は、何を削ってどうまとめるかがポイントであるが、今年の問題は日・英要約どころも、情報の取捨選択が難しく、解答としてまとめるのに厄介な問題だった。

大問構成・分量ともに、例年と変化がなかった。大問1・3が易化し、大問6は例年よりやや取り組みにくかった印象。それ以外の大問は例年通りの難易度であった。全体としては、合格には70%程度のスコアが必要となるだろう。